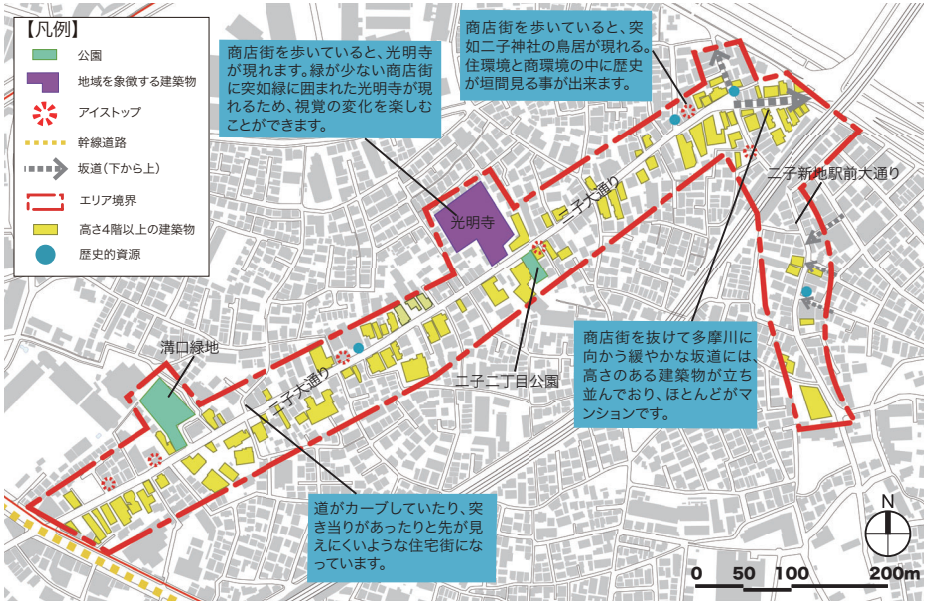
3-5　大山街道・商店街エリア

駅をまたいで存在する二子大通りと、二子新地駅前大通りから成るこのエリアは、商業・住宅の用途が混在した建築物が立ち並ぶ近隣商業地域です。大山街道に連なる商店街は、江戸時代に街道として多くの人々や物資が往来し、文化や情報が行き交っていました。そのため、現在も歴史的資源が点在して残っており、旧街道に息づく歴史を感じる景観を形成しています。二子新地駅前大通りは、150mにわたり昔ながらの商店や新しいお店が混在して連なっており、飲食店も充実しているため住民の生活を支える存在となっています。

景観特性



1.エリア内に点在する歴史的資源

大山街道のエリア内や周辺には光明寺や二子神社、駅前商店街には諏訪一本松跡など駅を挟んだ2つの商店街には多数の歴史的な景観資源が存在しています。そのため、地域住民の生活の場としての役割がある商店街に歴史的資源が点在していることで、エリアの時間的奥行きを感じ変化を楽しむ事ができる景観的特徴を持っています。

2.間口と幅員の違いによるリズム感

2つの商店街は、商業と住宅の用途が混在しており、建物の大きさによって間口が異なることから、景観にリズム感の違いを感じることができます。また、道幅が狭く、歩行空間が確保しきれていないことから、両者の商店街に共通して歩行者が安全に利用できない環境となっています。

3.2つの空間を分ける街路の入り口

商店街の通りに向かい派生している道路に入ると、住宅街が広がっています。また建物の高さに変化も少ない事から、単調な景観が特徴となっています。しかし商店街の通りよりも緑が多く、住宅街の中に潤いを与える効果をもたらしています。また広い公園も存在する事で、商店街とは異なる雰囲気を感じる事が出来ます。

景観形成の目標

歴史ある商店街を保全し、視覚的変化を与え歩きたくなる街並みへ

本エリアは、通り沿いに歴史的要素が含まれている事が特徴的なエリアである。そこで、歴史的要素を守りながら歩いて楽しい街並みの形成を図る。

景観形成の方針

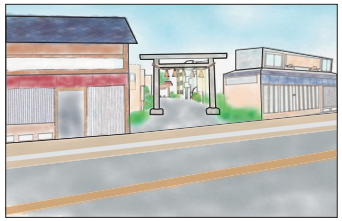
1.商店街としての賑わいと歴史的資源を調和させた街並みをつくる

景観形成の考え方

単調な景観となっている商店街に面した歴史的景観資源を保全していくことで、まちなみに変化を与える。

具体的な方策

- 歴史的資源の付近に店舗を設置することによって、歴史的資源があることを自然と促すようにする。
- 周囲の建築物は高さ7mまでとし、歴史的資源を妨げないような景観づくりをする。
- 周囲の建築物の色彩や照明を、ガイドラインに基づいた落ち着いた意匠とする。



周囲の建築物の高さや構造に配慮する

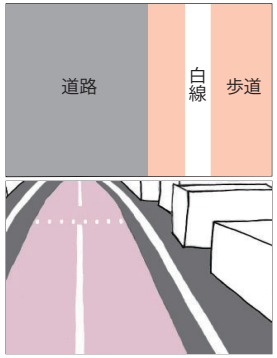
2.通行人にとって歩いて楽しい街並みへ

景観形成の考え方

商店街に面する建築物に対し、セットバックや間口の分節化を図り、道路空間の整備を行うことで景観の変化を安全に楽しむための整備を行う。

具体的な方策

- 通行人が寄りやすいような開放的な入り口のつくりとする。
- 2つの通りに共通して1階のセットバックを行う。
- 建築物の間口を分節化する事で、まちなみに変化を与える。
- 街灯の高さを4mとし、夜道も安全に歩行できるようにする。
- 白線よりも広く歩行者の舗装を設け、視覚的に歩行者と車との距離を確保する。



歩行者用の道路を舗装し、広く設けることで、人と車の間隔を保たせる

3.単調な景観から変化のある住環境を創出する

景観形成の考え方

道路の形成を活かした緑のアイストップの設置により、単調な景観に視覚的変化を与える。

具体的な方策

- 植栽の種類や配置の仕方を変えることにより、それぞれの景色を印象に残りやすいものとする。
- 商店街通りから見える住宅街道路には、低い植栽を設置する事で見通しを改善する。
- 住宅街から商店街の道路に面する部分に、アイストップとなるよう緑を設置し商店街と住宅街という異なる雰囲気を調和させる。

緑の配置により、景観に変化を与える